



祝

ROBANEWS 68 (ロバ)号

私たち家族同様
可愛がつてね！

活動報告

- 9月22日
人と環境にやさしい交通をめざす全国大会 in 京都
23日 カーフリーデー、このまちと~まれ
27日 自転車マップ部会
10月 5日 全国路面電車サミット準備会
10月11日
「このまちと~まれ」実行委員会(最終)
10月13日~14日
全国バスマップサミット広島大会
14日 坂井エコフェスタ in みくに
19日 ROBA 例会

今後の予定

- 10月20日(土) 自転車マップ部会
21日(日) 第3回ホジロバ教室
11月16日(金) ROBA 例会



駅そば(旧JR福井駅構内)

ゆうじんの部屋 書籍紹介

まちづくり学 (副題) アイディアから実現までのプロセス

西村幸夫編 朝倉書店 2900円+税

ISBN978-4-254-26632-0 C3052

この本は、編者を含め8人の著者により書かれた物であり、内容を一言で表すことは難しい。まちづくりが、本来住民の協働から発するはずなのに、役所からの押しつけになっていないか。まちづくりは道路等のハード整備だけではないのではないか。そのような問題意識をお持ちの方々におすすめる。よく考えてみると、市民主体のまちづくりができない地区は、国の法律が悪いのではなく、社会、文化の問題のようにも思えてくる。この本のエッセンスを端的に示したのが表1.1(本書7ページ)ではないかと思う。

(財)国土技術研究センター調査第3部長 美濃部 雄人 Minobe Yujin

■はじめに

今年で 2 回目となる(前回は宇都宮市で 2 年前に開催)。今年は京都の同志社大学で行われた。1 回目は、ROBA の活動を紹介することで発表をした。今回は、「タウンモビリティ」の中心としたことを話すこととしたので「ROBA」(ROBA としてオーソライズされていないので)というよりは熊谷組の高橋として登録した。しかし、ROBA のことを話さないわけにはいかないなので、福井鉄道への支援のこと、来年の全国路電サミットの開催についても紹介した。

■タウンモビリティとは

平たくいえば、街のなかを「高齢者」や「障がい者」が自由に、気兼ねなく移動することをいう。もっと具体的に言えば、「電動カート」を自由に乗りこなして、人生を謳歌することである。

私たちは、LRT の整備、乗継を便利にして公共交通を充実させていく活動を展開している。このタウンモビリティは、そうやって集まってきた方々が、自由に、人の手を煩わせることなく、自分の意思で買物をし、まちを散策する方法を提案している。

「タウンモビリティ」の語源はイギリスの「ショッピングモビリティ」からきており、移動することが困難な方々がショッピングセンター内を電動カート等を利用して、自由に気軽に買物行動を促進させる事業をいう。日本ではこれを街の中で実施し、街なかを活性化させることができないか、ということを目指して「ショッピング」ではなく「タウンモビリティ」といって、当時建設省などが中心となって普及している。国内では広島県に多くその事例が見られ、全国に少しずつであるが浸透している。当時の「ダイエー」がいち早くこの「システム」を導入して注目を浴びた。今では、商店街の事業の一つとしてこの「タウンモビリティ」を実施しているところもある。青森県青森市の新町商店街もそのひとつである。

■発表の骨子

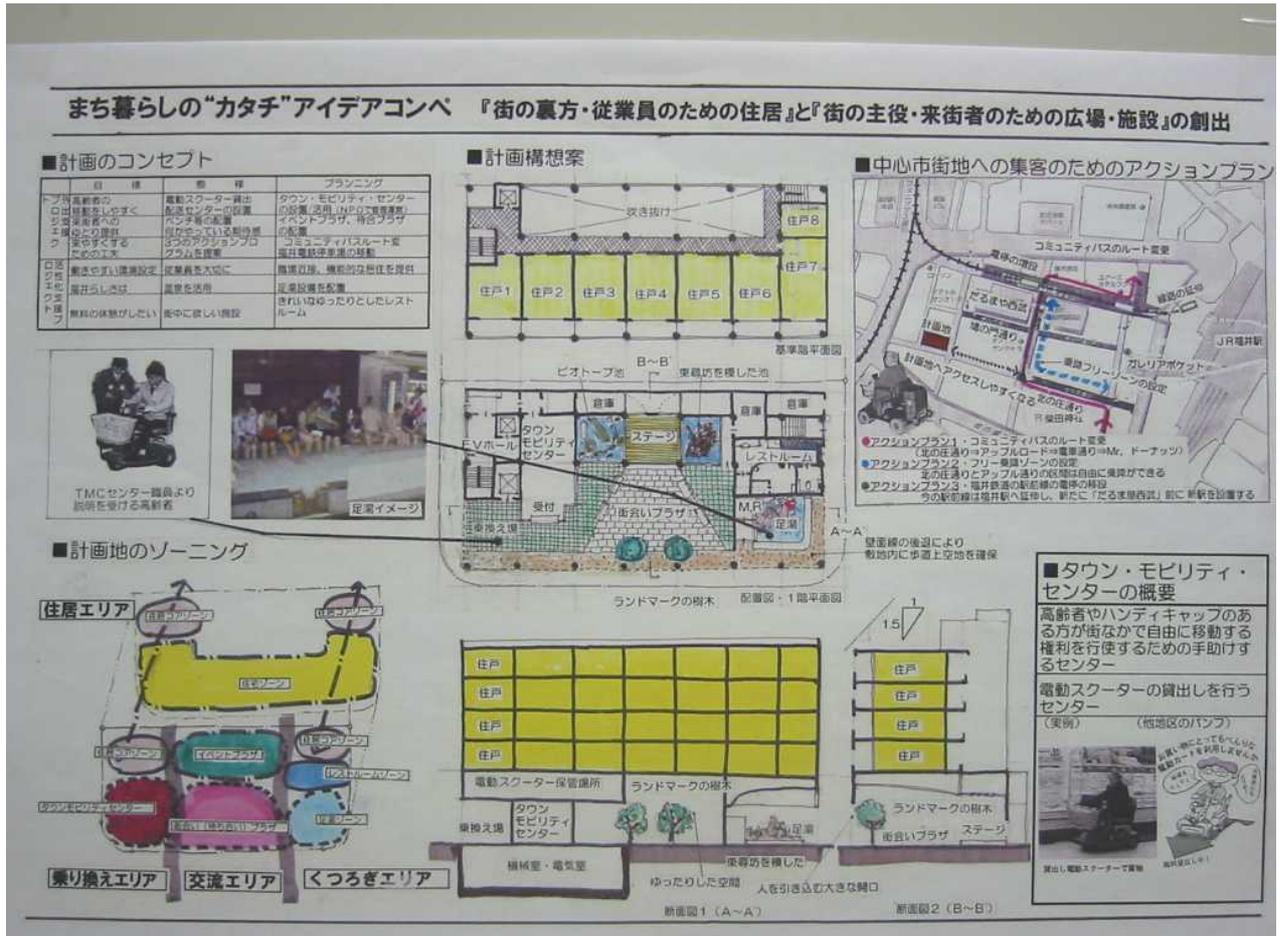
こんなことを背景に、自分のまちづくりのテーマの一つである「タウンモビリティ」の実現に向けていくつかの基準があるのではないかとということから今回の発表をすることとした。

タイトルは「高齢社会におけるタウンモビリティの実現の向けて 福井モデルから」と称して、本当の意味でのタウンモビリティは「福井」にできるべきであるみたいなことを主張している。実は高齢社会は、昭和 45 年から始まっていた(高齢者(65 歳以上)の人口に占める割合が 7% を超えると高齢化社会、14% になると高齢社会となり、現在福井県は 23% 弱であり超高齢社会に突入しつつある。当然中心部での移動する機会、外出する機会が減少⇒経済活動の鈍化⇒郊外化⇒ますますの空洞化となり、コンパクトシティ化して集中させても市内を自由に行き来できる仕組みを作ってあげなければ、「まちなか」の活性化には至らない。でもどこの街でもこのように「タウンモビリティ」ができるわけではないと考えてる。

①中心市街地がある、②そこまで公共交通網が整備されている、③福祉系の大学やまちづくり NPO の活発な存在、④まち中を歩きたくなるような施策を施しているかなどの条件の重なりが強いところは、「タウンモビリティ」事業が進展していくのではないかとらんでいる。単なる「電動スクーター」を貸し出すのではなく、そこに学生のボランティア活動をシステムとして組込むことで授業の一環とすることで「まち」が支える仕組みを作り出すことで、持続可能な「タウンモビリティ」事業が可能であると考えた。

かつて、駅前の集合住宅の提案コンペがあった。これに応募し、上記の「タウンモビリティ」のことを踏まえた集合住宅の計画案を出し、佳作に入選した経緯がある。

■私の考える「タウンモビリティ」事業



コミバスのルートも変更し、かつ福武線の駅も移動させ、なるべく公共交通の流れのなかに、「タウンモビリティセンター」を位置付けて利用しやすいように計画をした。

■再び、第2回人と環境にやさしい交通をめざす全国大会のこと

8つのセッションに57件の提案がなされた。私の入ったセッションは「これからの公共交通への考察」というところで、上記のような発表をさせていただいた。

そして、全国大会ということで総会のなかで+恋委員長の内藤氏が力説していたのは「京都議定書」の温室効果ガス6%削減は自前での対策では不可能に近い現状から、あらゆる角度からクルマに替わる交通システムの充実が必要となると力説し、この大会が単なる研究者の集まりでなく、市民、行政、事業者等利害関係者が一堂に集まる場で、かつ京都で行われた意義を強調しつつ、「京都が変われば日本が、そして世界が変わる」との意気込みでこの大会を成功させたいと挨拶された。

そのあと国交省の方から今般制定された「地域公共交通の活性化及び再生に関する法律」について詳細な説明がなされた。

いよいよだなという感じを受けた。

翻って、福井鉄道行政へ具体的支援を要請する記事を見るにつけ、改めて地方路面軌道事業者の現実をかみ締めた。これからがROBAの本領発揮、明年の路電サミット目指して、まずは目の前のひとつひとつの課題をこなして進んでいこうという気持ちで京都をあとにした。

カーフリーデー福井2007「このまちと～まれ！」を開催

9月23日に中心市街地で行われたカーフリーデー福井2007は各市民団体が参画して、「このまちと～まれ！」の合言葉のもと、まちなかで楽しめるイベントが10時から16時まで行われた。福井街角放送が街頭生放送を行い、ラジオのゲストパーソナリティとして、内田さんと清水さんが出演した。内田さんはイベントの趣旨を説明し、ROBAが半額補助した福井鉄道とえちぜん鉄道の1日乗車券でまちなかへ遊びに来てくださいとアピール。続いて清水さんがROBAの取り組みについて説明した後、ROBA作詞・作曲・歌唱の「ふるさと電車に乗って」が流れた。十数年ぶりに電車に乗って中心部へ来たという方もおられたので、まさにカーフリーデーのイベントにふさわしいオープニングとなった。

ROBAでは自転車タクシーの乗車体験、おもしろ自転車展、自転車無料点検、自転車クイズ、LRT・公共交通パネル展を実施した。また、国土交通省中部運輸局主催の交通エコロジー教室と福井市主催の市民活動体験講座、福井大学の川上先生の研究室で実施されたモビリティ・マネジメントの調査に協力した。交通エコロジー教室では事前にたててもらった計画に従ってバス・電車を体験乗車してもらった。12組の親子が参加し、三国や大野まで足を延ばした人たちもいた。市民活動体験講座はNPOやまちづくりに関わっている市民団体がどんな活動をしているのか知ってもらうことで、自分たちのまちでできることを見つめ直してもらう企画である。参加した市民13名はカーフリーデーのイベントを体験してもらい、ROBAの活動について畑さんから説明を受け、ROBAのメンバーも6名が参加して意見を交換した。「どうやったらこんなイベントやバスマップを作るような活動ができるのか、その秘訣を教えてください」といった意見に対して、内田さんからは「月に1度はみんなで集まるようにして、あとはメールでやりとりをしながら少しずつ役割分担している」といったノウハウが語られた。

ガレリア元町でのパネル展では福井鉄道とえちぜん鉄道の乗り入れなどによるLRT化やヨーロッパの事例を紹介し、富山ライトレールのビデオも流した。約100名の人々が訪れ、子ども連れの視線を集めたが、中には日華化学前駅や八島駅が近所にできたので乗ってきてもいいというおばさんたちも、相互乗り入れができたらもっと便利になるねと言いながら熱心に説明を聞いてくださった。

アップルロードでは自転車をアピールする取り組みが行われた。敦賀から運ばれてきた自転車タクシーは好評で約140名が体験乗車した。歩くのとはまたひと味違った景色が楽しめ、時には子供たちが笑顔で手を振っている姿が印象に残る。自分でも運転してみたが、車体幅の感覚がつかめず、障害物にぶつかりそうで曲がるのに苦労した。運転手を務められた佐藤さん、橋詰さんお疲れ様でした。バッテリーを使うと乗客を乗せても軽くなったそうです。塚谷さん作成&実施の自転車クイズには約35名がチャレンジし、普段考えていなかった自転車のルールについて楽しみながら学んでもらった。また、サイクルのご協力で自転車の無料点検と外国製や2人でこぐ自転車などユニークなものが展示、体験乗車させてもらった。バランスが通常と逆の自転車は普通にペダルをこぐことができず、5mほど進むのがやっとだった。現在ROBAで自転車マップを作成しているが、安全とマナーを向上させれば、自転車はもっと有効に使えるだろう。

準備当初は電源が使えないなどで手間取り、パネルや店の出し方などで商店街の店に迷惑をかけたことや、各団体間で連絡が行き渡らない、協力はしてもらった福井駅前商店街振興組合ではあったもののイベントに合わせた積極的な商売が見られないなどの問題もあったが、まちなかの魅力向上のために各団体が協力し合ったことは大きな意義があった。まちの賑わい、公共交通の活性化、環境問題、子どもたちの生活などテーマはそれぞれであるが、車を降りて交流すればまちが素晴らしくなるというカーフリーデーのコンセプトを大切にして、来年以降もさらに広がればよいと思う。(報告：松原光也)



LRT・公共交通パネル展：ガレリア元町



自転車タクシー：アップルロード



自転車クイズ：アップルロード



おもしろ自転車展：アップルロード



ラジオ生放送：サテライトスタジオ



市民活動体験講座：ガレリア元町



交通エコロジー教室：エコライフプラザ

このまちと～まれ&カーフリーデー結果報告

NPO 法人 ROBA

内田桂嗣

実施日：平成 19 年 9 月 23 日（日） 10:00～16:00

実施場所：アップルロード、ガレリア元町、ガレリアポケット
エコライフプラザ

ROBA 参加スタッフ 別添

会計報告 別添

実施内容と立寄り数（参加者数）

| <u>実施企画</u> | <u>立寄り数</u> | <u>（参加数）</u> |
|---------------------|-------------|----------------|
| おもしろ自転車展 | 100 人 | |
| 自転車クイズ | 45 人 | 29 人(クイズの答えた人) |
| 自転車タクシー | 170 人 | 120 人（乗車人数） |
| LRT パネル展 | 120 人 | |
| 交通エコロジー-教室（サワコンと協働） | 69 人 | |
| 市民活動体験講座 | 10 人 | |

1 日フリー切符半額

えちぜん鉄道(通常のフリー切符は 600 枚程度、共通は 1,2 枚程度)

フリー切符 大人 802 枚

フリー切符 小人 52 枚

共通フリー切符大人 24 枚

共通フリー切符小人 5 枚

合計 883 枚（通常 602 枚） 47%増加

福井鉄道

フリー切符 大人 743 枚（通常 421 枚）

フリー切符 小人 59 枚（通常 16 枚）

共通フリー切符大人 35 枚（通常 8 枚）

共通フリー切符小人 5 枚（通常 0,3 枚）

合計 842 枚（通常 445.3 枚） 89%増加

坂井エコフェスタ in みくに2007



「人と環境にやさしいLRT」と題して、10月14日に開催された坂井エコフェスタ in みくに2007にROBAパネルが出展されました。

広島にいた林、福井にいた清水、フェスタ責任者のサンワコン桶谷の連携プレーで実現しました。

えち鉄のLRT化などについては、新聞報道などを見ているためか、三国の人は関心が高く、オバちゃんたちもじっくりと覗き込んで、“へー”とか、“ふーん”とか言っていた(そうでした)

写真：もちろん桶谷



作 / 漆崎 耕次

編集後記・・・編集委員より一言

林(変集長)

「10月21日～12月4日まで大阪の人になります。でも福井弁でしゃべります。」

塚谷(副編集長)

「半袖半ズボンでは、朝夕が少々きつくなりました。」

内田(発行責任者)

「編集委員、もう一人欲しいね！誰か頼む！」

事務局 特定非営利活動法人

ふくい路面電車とまちづくりの会(ROBA)

910-8031

福井市種池1丁目1905-3

TEL: 0776-25-7968

e-mail: roba@mbh.nifty.com

URL: <http://roba.cocolog-nifty.com/roba/home/>